

新型コロナウイルス感染症に対する 神戸医療産業都市の取り組み

神戸医療産業都市の進出企業・団体・医療機関による、
新型コロナウイルスに係る検査や治療、研究開発等の
代表的な取り組み事例をご紹介します。

自動PCR検査ロボットシステム



(画像提供：シスメックス(株))

川崎重工業(株)、シスメックス(株)、(株)メディカロイドの3社が共同開発し、現在以下の場所で実装されています。
(藤田医科大学、東京都内、川崎重工工場、シスメックス研究開発センター、関西国際空港内)

重症患者受け入れ病棟の整備

- 集中治療室機能を備えた重症個室14床に、中等から重症向けの22床を加えた計36の病床すべてに人工呼吸器を配備
- 患者の容態を遠隔モニタリング可能
- すべての病室を陰圧化し、感染対策を徹底



神戸市立医療センター中央市民病院



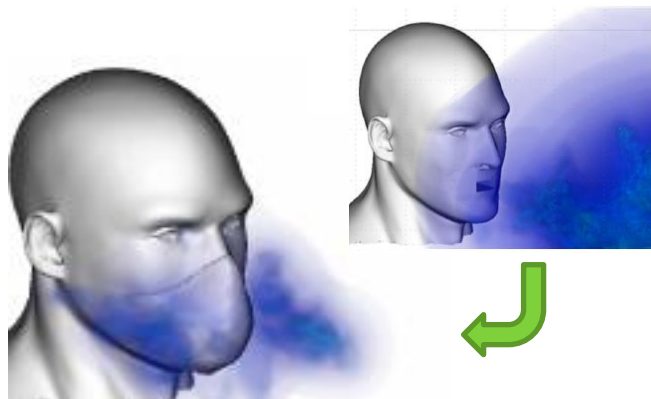
臨時病棟外観

(画像提供：神戸市立医療センター中央市民病院提供)

遠隔ICUシステム

新型コロナウイルス感染症患者の入院受け入れを行う市内医療機関に対して、神戸市が(株)T-ICUの遠隔ICUシステムの導入を支援しています。また、集中治療専門医の診療支援により医療提供体制の充実に取り組んでいます。

スーパーコンピュータ「富岳」の活用

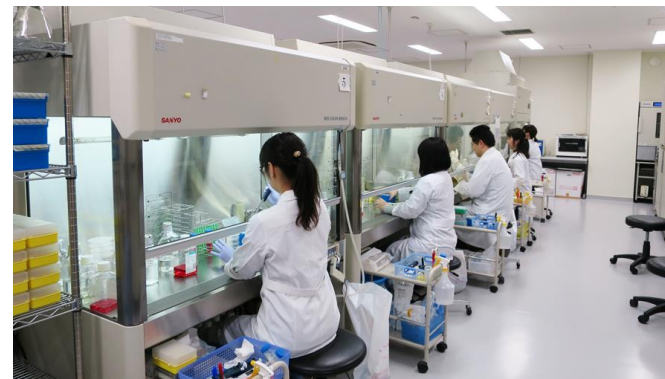


(画像提供：理研・豊橋技科大)

(協力：京工織大, 阪大)

「新型コロナウイルスの構造解明」や「治療薬となりえる薬剤の探索」、「新型コロナウイルス感染症の飛沫感染の予測とその対策」など、「富岳」の計算能力を生かしたシミュレーションを実施しています。

進出企業と医療機関との共同研究



(画像提供：(株)イーベック)

■ シスメックス (株) による検査技術開発

より簡便で正確な抗原・抗体検査、重症化リスク・治療効果モニタリング指標サイトカイン測定検査の臨床実装に向け、中央市民病院と共同研究を実施しています。

■ (株) イーベック による抗体研究

従来株や変異株に対して、低用量で中和が可能なモノクローナル抗体を、新型コロナウイルス感染症の罹患者から提供された血液をもとに開発しています。